

●平成 28 年 (2016 年) の日本の地震活動

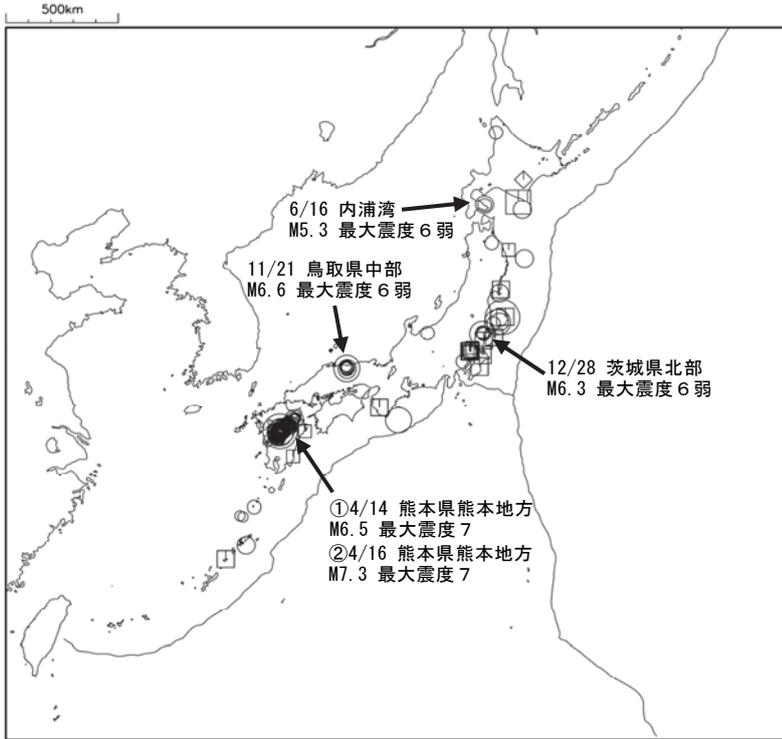


図 1 平成 28 年 (2016 年) に最大震度 4 以上を観測した地震の震央分布図
最大震度 5 強以上を観測した地震に矢印をつけた

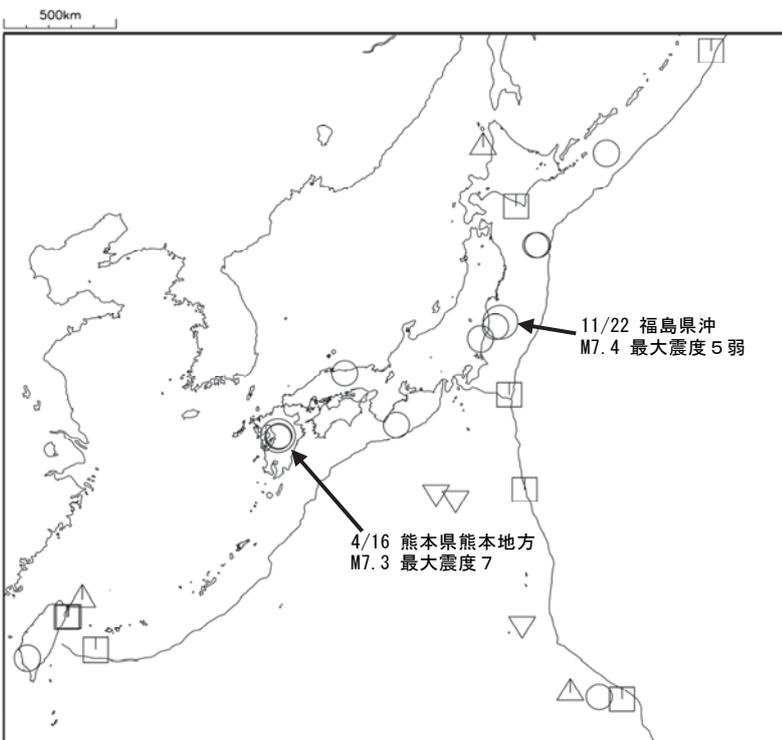


図 2 平成 28 年 (2016 年) に発生した M6.0 以上の地震の震央分布図
M7.0 以上の地震に矢印をつけた

[概況]

2016 年に国内で被害を伴った地震は 7*¹ 回 (2015 年は 6 回) 発生した。

死者・行方不明者を伴った地震は、「平成 28 年 (2016 年) 熊本地震」の 1 回 (2015 年はなし) であった。

震度 1 以上を観測した地震は 6,587 回 (2015 年は 1,842 回)、最大震度 4 以上を観測した地震は 192 回 (2015 年は 44 回)、最大震度 5 弱以上を観測した地震は 33 回 (2015 年は 10 回) であり、2016 年中に観測した最大の震度は、4 月 14 日、16 日に熊本県熊本地方で発生した地震 (それぞれ M6.5、M7.3) で観測された震度 7 であった (図 1)。

M6.0 以上の地震は 27 回 (2015 年は 18 回) 発生した。過去 91 年間の発生回数の平均が 18.5 回、標準偏差が 12.8 であることから、ほぼ平均的な発生回数であったといえる (図 4)。

2016 年中で最大の地震は、11 月 22 日に発生した福島県沖の地震 (M7.4) であった (図 2)。

日本で津波を観測した地震 (海外で発生した地震を含む) は 2 回 (2015 年は 4 回) であった。過去 90 年間の平均が 2.5 回、標準偏差が 2.0 であることから、ほぼ平均的な発生回数であったといえる (図 4)。

また、「平成 28 年 (2016 年) 熊本地震」の一連の地震活動は、全体として引き続き減衰傾向がみられるが、活動は継続している。

*1 4 月 14 日以降に、熊本県から大分県にかけて発生した一連の地震活動 (「平成 28 年 (2016 年) 熊本地震」) により生じた被害については 1 回として扱った。

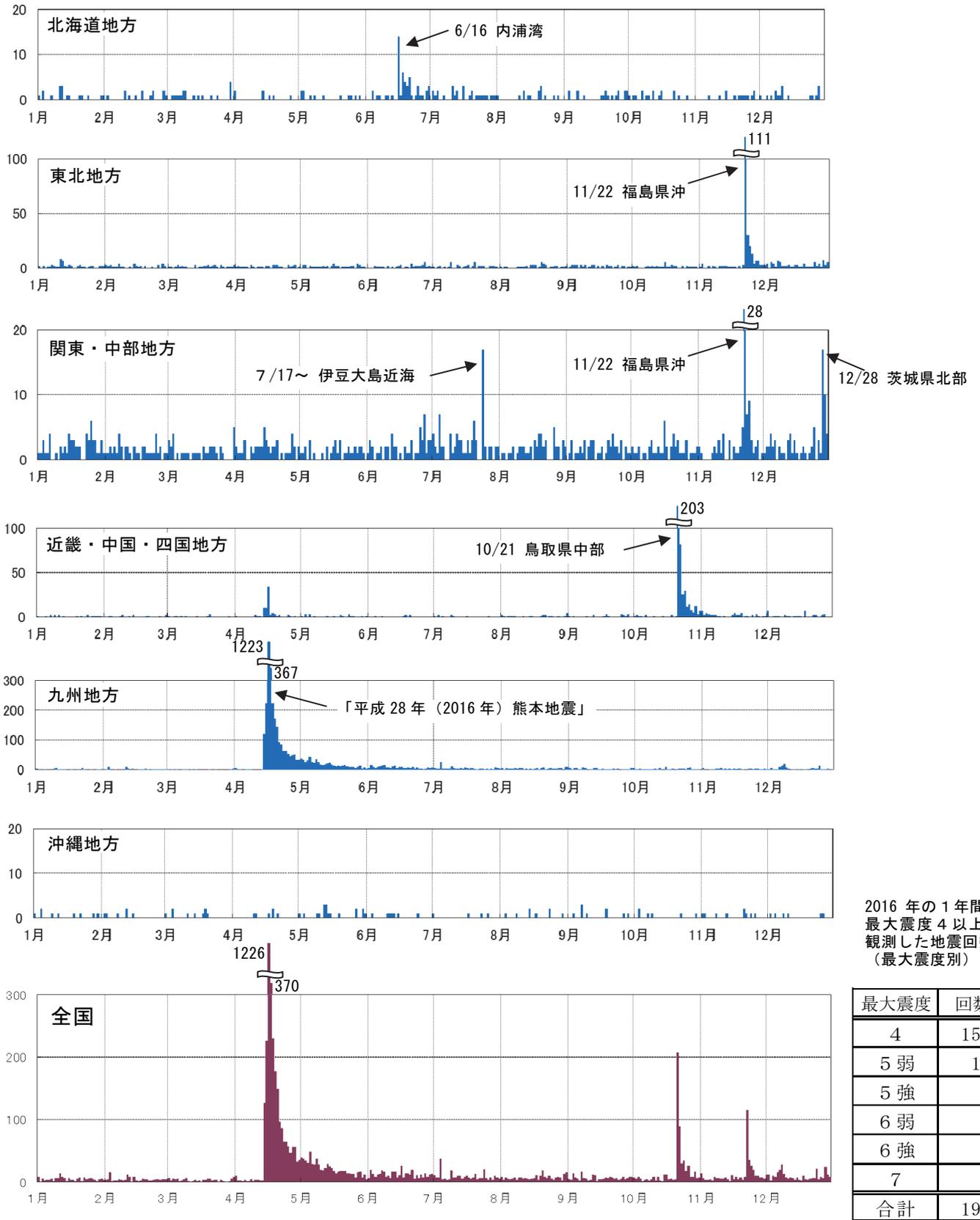


図 3 平成 28 年 (2016 年) に震度 1 以上を観測した日別回数 (全国及び各地方別)

6 つの地方 (北海道地方、東北地方、関東・中部地方 (三重県を含む)、近畿・中国・四国地方、九州地方及び沖縄地方) に分割した。

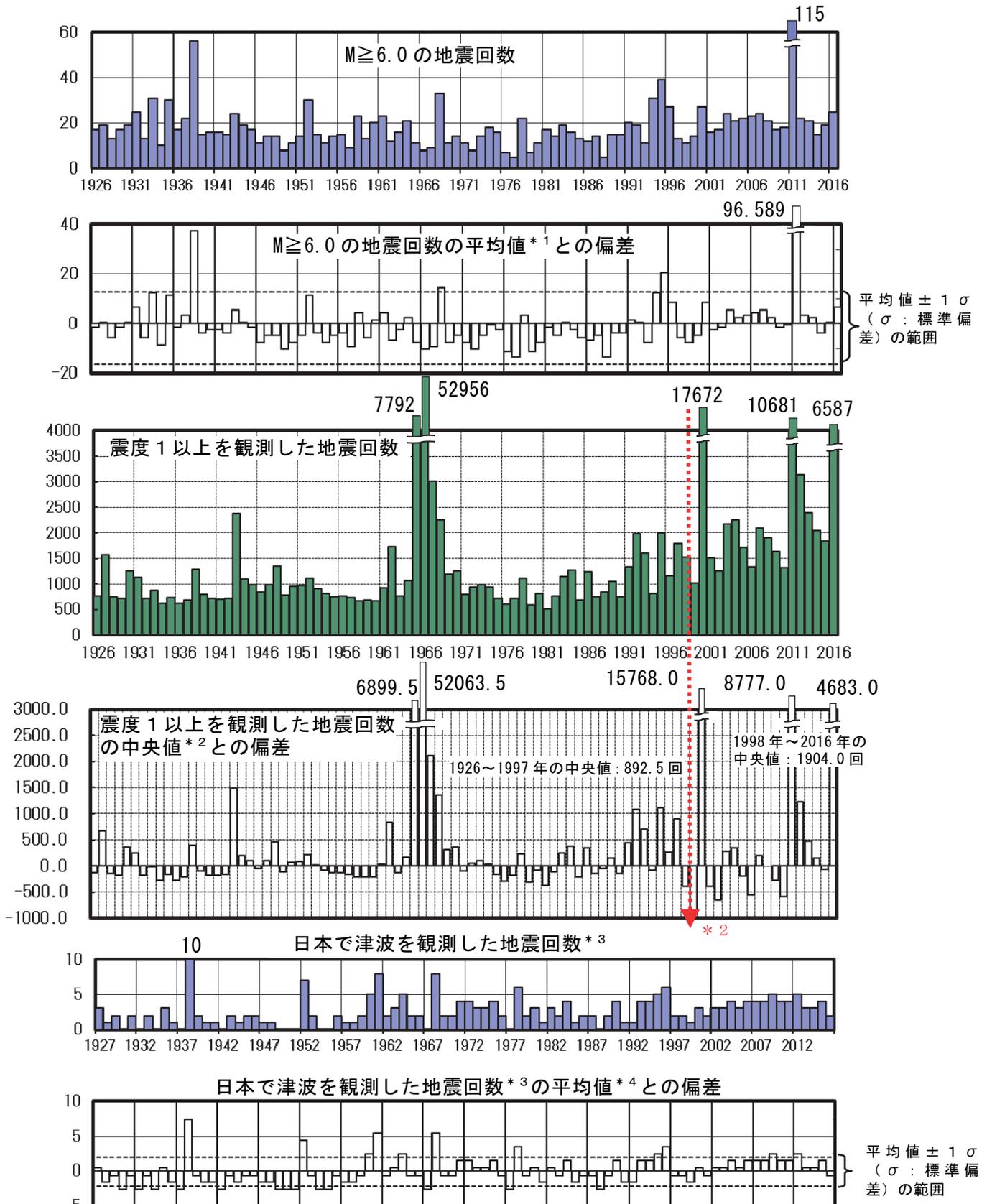


図 4 全国の $M \geq 6.0$ 、震度 1 以上および津波を観測した年別地震回数 (1926-2016 年)

- * 1 $M \geq 6.0$ の過去 91 年間 (1926~2016 年) の平均は 18.5 回/年、標準偏差は 12.8 であった。
- * 2 震度 1 以上を観測した地震の回数を比較するにあたっては、近年、震度観測点が増えたことを考慮する必要がある。ここでは、地方公共団体の震度計のデータを活用開始した時期 (1997 年 11 月) を考慮し、1998 年を区切りとして、その前後で各々中央値を求めて比較した。なお、中央値からの偏差が大きい 1965~1967 年には松代群発地震、2000 年には新島・神津島の地震活動、2011 年には「平成 23 年 (2011 年) 東北地方太平洋沖地震」、2016 年には「平成 28 年 (2016 年) 熊本地震」が発生している。
- * 3 海外で発生した地震を含む。
- * 4 日本で津波を観測した地震の過去 90 年間 (1927~2016 年) の平均は 2.5 回/年、標準偏差は 2.0 であった。